

原子力リスク研究センター（NRRC） 第23回 技術会議 議事録

1. 日 時：2018年11月29日（金）10：00～12：30

2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室

3. 出席者（順不同、敬称略）

主査： 横尾（NRRC）

委員： 勝海（北海道電力）、金澤（東北電力）、谷・村野・山本（東京電力HD）、伊原・浜田・尾之内（中部電力；中川代理）、上野（北陸電力）、鈴木・吉原（関西電力）、林（中国電力）、黒川（四国電力）、疇津（九州電力；米丸代理）、石坂（日本原電）、大柿（日本原燃）、鞍本（電源開発）、薄井（東芝）、今野（日立 GE）、山岸（三菱重工）、渥美（電事連）、多田（電工会）、倉田（原安進）、高橋・岡本・白井・梅木・稲田・豊田（山本代理）・山中・朝岡（NRRC）

4. 議事概要

（1）2019年度研究計画について

○NRRC より、2019年度の研究計画について報告がなされた。

（主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員）

◆SSHAC 指摘される不確かさの程度が、どのように伝播していくのかというところが見えて理解が進むことが一番大きな効果であると思っており、期待している。レベル2PRAのCVのマスの評価においても、SSHACに近いようなイメージがあるが、評価のやり方も同様なのか。

◇SSHACの考え方というのは、認識論的な不確かさをどのように定量化していくかというプロセスであるため、このようにロジックツリーを作るというやり方は、共通すると思う。

◇確率論的にソースタームを評価する手法が見えてくる。かつ、定量的な意味付けもついてくる。まだ体系的に誰もやっていないところなので、ぜひやっていきたい。

（2）NRRCの活動状況について

○NRRC より、「NRRCにおけるPRA教育実施について」、「原子力発電所のリスクマネジメントワークショップ」について報告がなされた。

以上